

4 コスト計算書

令和5年度（令和4年度分）公共施設のコスト計算書は、212施設を対象に作成した。

令和4年度は、ウイズコロナに移行したこともあり、利用延べ人数が令和2年度に比べ約110万人、令和3年度に比べ約89万人増加している。それに伴い、令和2年度には1億1,684万円まで落ち込んだ使用料収入が、令和4年度では1億5,216万円まで回復している。

支出の面では、令和4年度、中央図書館が酒田駅前交流拠点施設ミライニ内に移転し、酒田駅前駐車場も新設されるなど、新たな施設の運営に係る経費が増加している。

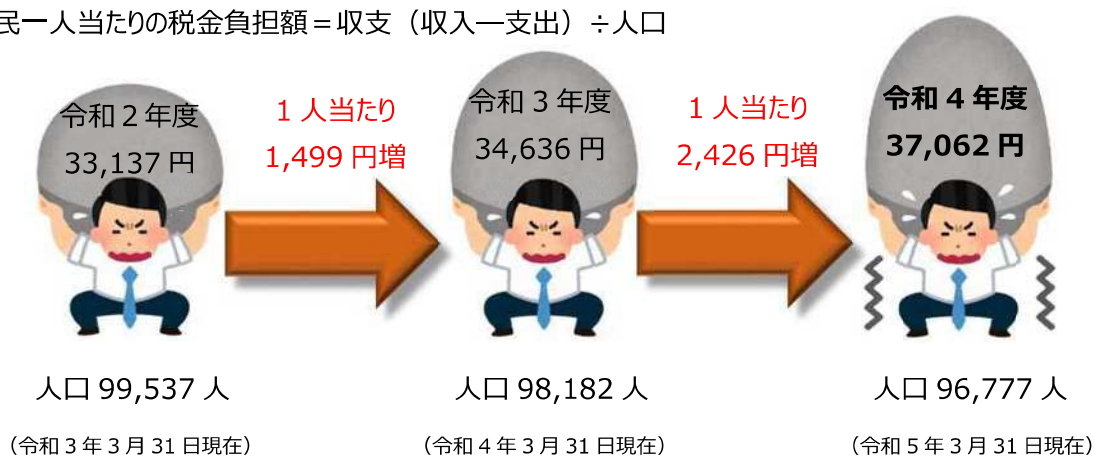
人口が減少している一方で、支出は増加しているため、市民一人当たりの税金負担額は37,062円となり、令和3年度に比べ2,426円増加している。

今後、燃料費等の増加や施設の老朽化等に伴う修繕費の増加も見込まれるため、施設の統廃合も含めた、施設の効果的・効率的な管理運営が求められる。



市民一人当たりの税金負担額

※市民一人当たりの税金負担額 = 収支（収入－支出）÷人口

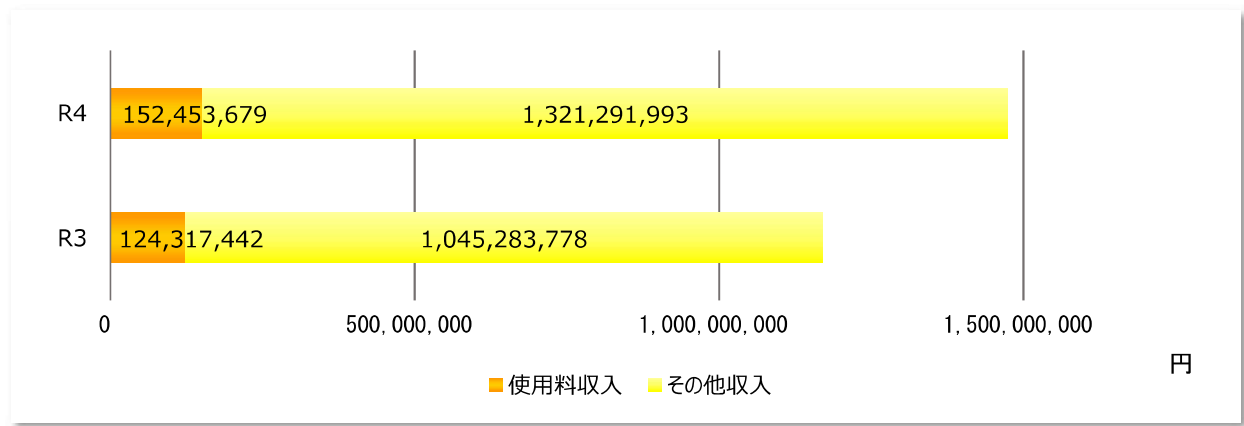


収入

使用料収入は、152,454千円で、令和3年度に比べ28,136千円（22.6%）増加している。これは多くの施設で、令和3年度に比べ利用延べ人数が増加したことによるものである。

その他収入は、1,321,292千円で令和3年度に比べ276,008千円（26.4%）増加している。国体記念体育館の工事請負費に対する市債等の充当額が皆増したことが、主な要因の一つとなっている。

使用料収入とその他収入を合わせた収入の合計は、1,473,746千円で、令和3年度に比べ304,144千円（26.0%）増加している。

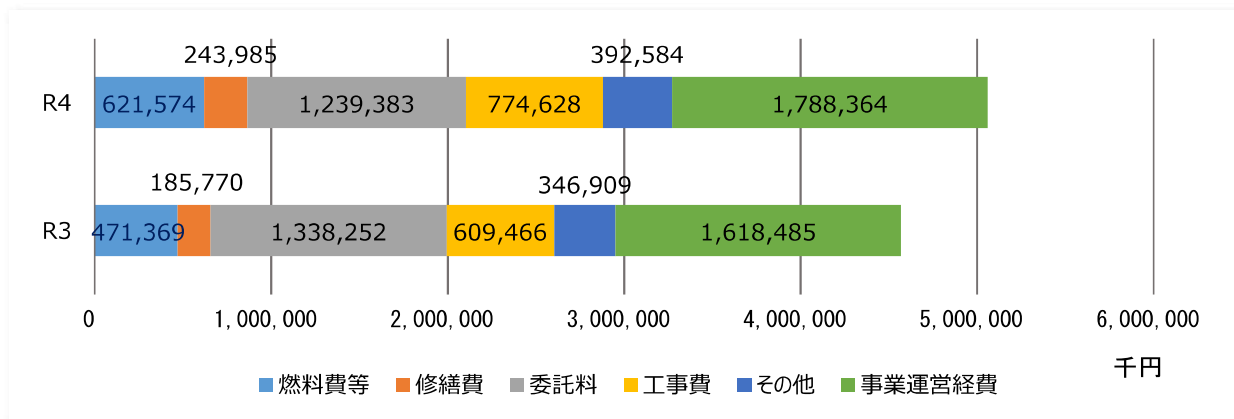


支出

維持管理経費は、3,272,153千円で、令和3年度に比べ320,388千円（10.9%）増加している。委託料が98,869千円（7.4%）減少した一方で、光熱水費等を含む燃料費等が150,205千円（31.9%）、工事請負費が165,162千円（27.1%）増加したことが大きな要因となっている。

事業運営経費は、1,788,364千円で、令和3年度に比べ169,879千円（10.5%）増加している。増加した主な要因の一つとして、中央図書館が開設されたことが大きい。

維持管理経費と事業運営経費を合わせた支出の合計は5,060,518千円で、令和3年度に比べ490,268千円（10.7%）増加している。



収支

使用料収入の他、補助金や市債等の充当額等を含めた収入から維持管理経費と事業運営経費を合わせた支出を差し引いた収支は、△3,586,772千円となっており、令和3年度に比べ186,123千円（5.5%）悪化している。その要因の一つとして、中央図書館の事業管理経費が増加したことが挙げられる。

収支のマイナス分には税金等一般財源が充当されているが、充当率は令和3年度の74.4%に比べ、令和4年度は70.9%となっており、割合は減少している。

